

新生涯学習施設(仮称)についての青梅市青少年委員意見

1 新しい施設に盛り込むべき部屋等の機能は、何を盛り込むべきだと考えますか。

釜の淵市民館ならびに青梅市民センターにある「キッズルーム・児童室」。これらの施設は通う子供たちの利便性を考えると、「1か所集約」ではなく、点在していることに意味があると思う。

新施設に観光施設としての機能を持たせる。(川越まつり会館のようなイメージ)
例えば、山車人形を飾れば、観光だけでなく現在は各町に委ねられている青梅市の有形民俗文化財保護という観点からも有効かと思う。

子供対象の行事などで屋上において軽い運動・遊びが展開できるよう、屋上床仕上げの耐摩耗性に配慮してほしい。また下階への防音・防振対策も望む。

木工等で削りクズが出ることに対応できる工作室を望む。

「青少年委員」という立場で今までの活動内容から勘案すると、①研修やセミナーが行えるスペース(第3ブロック研修、青少年リーダー研修等)、②PA(プロジェクトアドベンチャー)が実施可能なスペース、③青少年委員の活動に必要な資機材の収納スペースを備えるべきと考える。

現状の各施設が持っている機能はすべて盛り込むべき。青少年委員としては、永山ふれあいセンターにある倉庫機能は盛り込んでほしい。

青少年委員協議会等諸団体の備品庫スペースを確保してもらいたい。

2 新しい施設ができた場合、利用する団体、地域においてどのような影響が出ると考えますか。

それぞれの施設が分散されていたことで、地域に密着できていた利点もあり、一概に集約することが最善ではないと考える。

集約することにより、当然ながら利用率の向上(=予約が取りづらい)が考えられる。

現在、青少年委員では永山ふれあいセンターに多くの備品を置いているが、閉鎖後の保管場所は確保できるか。

現在、第1支会では青梅市民センターに体育部並びに青少対用の備品の多くを置いているが、今後も継続して保管場所を確保できるか。

それぞれの地域から遠くなってしまい不便になる場合がある。特に永山ふれあいセンターは、風の子太陽の子広場で活動を予定したときの雨天時に使用できたことと、倉庫としての機能があるため、場所が変わることで不便になると考える。

3 その他、新しい施設に対して、ご意見がありましたら自由にお願ひします。

市の方針に対する異議は特段ないが、拠点の集約を行ううえで利用実態を踏まえ、適切な「選択と集約」を行っていただきたい。

市内の公共施設再編計画の取りまとめは平成28年度中に行う計画だと思うが、本件だけ先行して計画しているのはなぜか。

ケミコン跡地の開発については、構想ばかりが先行しているように思うが、市はその件に対し「本気」で検討しているのか甚だ疑問である。議会においてこの件で質問が挙がっても「検討をしている」程度の回答しかない状況では、質問に回答することすら出来兼ねる。回答を求めるには、まず市が開発計画を市民に対して約束するとともに、具体的なロードマップを示してからであると思う。

大型ホールを建設し、完成後に市民会館の改修とはならないか?

仮にケミコン跡地の建設が遅れるようであれば、現市民会館の北側にある駐車場に新施設を建設し、完成後に現市民会館を取り壊せば、ホールの使用にギャップが生じないと思う。

ケミコン跡地に予定している新市民ホールに現市民会館の機能を盛り込み、完成後に現市民会館の取り壊しをすれば、スムーズな機能の移管ができるのではないか。

教育委員会所管の施設が再編されるこの機会に、「風の子太陽の子広場」についても機能の見直しを行ってはいかがか。

現況では、市民に広く利用されているとは言えず、ニーズと乖離している状況になっていると思う。いわゆる「プレーパーク」のような機能を持たせてはいかがか。

「子供の居場所」を確保することは、「住みよい街づくり」には欠かせないことだと思う。また、高齢者の方々に対しても利便性の高い公共サービスは重要な要件だと考えている。アキテンポ不動産の活動も見ているが、シャッター商店街の様相も見えてしまう。本施設が有意義な施設になることを切に期待している。

「新施設ののべ床面積が約3,000㎡」となると、施設を利用する際、会議室を始め各種の特別室の使用にはかなりの制約を受けるのではないかと懸念している。使用頻度からの割り振りを検討するとは思いますが、流用性の高い施設になることを希望する。

少子化に伴い、第一小学校施設の併用は考えているか。（文部科学省が平成28年度予算に計上している“学校と地域の連携協働の推進”とはリンクするか）

現市民会館周辺は駐車場が少ないので、新生涯学習施設には駐車場の検討もお願いしたい。

子供向けの終日行事を考えると、諸室での弁当・軽食は認めてもらいたい。